

【感想・気づき】

この度は、「原田メソッド認定パートナー養成塾」を受講させていただき、誠にありがとうございました。原田先生、森川様、猪岡様はじめスタッフの方々、講師の皆様方に改めて感謝申し上げます。

講義には殆ど出席できませんでしたが、念願の受講を果たすことができ、本当にうれしかったです。

まず、すべての回を通じて感じたのが、原田先生の熱量でした。今までも様々な研修を受けてきましたが、大体において受講者には耳触りのよいことを伝える先生が多いなか、原田先生は、本音で語ってくださっている、というのがすごく伝わってきました。

すべてのことは良いも悪いも50・50である、との言葉のごとく、コロナのおかげで？という語弊があるかも知れませんが、オンラインで受講させていただけるということは、まさに自分にとってはメリットでした。確かに、リアル（会場）での受講は、その場の空気感や熱気も感じられ、その場でしか味わえない雰囲気がありますが、動画での受講は、何度も繰り返し視聴できることや、自分の時間に合わせて視ることができるメリットがあり、とてもありがたく感じています。

1回目の講義は、原田先生がまさに命がけでされてこられた指導のエピソードに胸を打たれました。先生の著書でも読ませていただいておりますが、直接お話を伺うのとでは、また違う感動があります。加えて、世界の教育のトレンドなども知ることができ、非常に学びになりました。

特に印象に残った私のトップ3は以下です。

「哲学＋ツール＝教育」 「長所50 短所50」 「目的意識」

私は、ループリックの課題に「やりきる力」を選びました。自分の弱い部分だからです。受講を通して改善できるようにしていきたいと思っていましたが、満点ではないにしても、この2か月近くでかなり習慣化できた行動もあり、手ごたえを感じています。

ストロークの実践に関しては、正直照れくささもありました。が、世間話から入るなどなるべく自然な形で話を持っていき、主に問いかけのスタイルで行ってみました。相手によって、よく話してくれる、一言二言の答えしか返ってこない等、様々でしたが、チームワークはよくなった感があります。しかし、中には残念ながら全くコミュニケーションをとる価値のない人もいたことは、残念であり悲しかったです。

2回目の講義は、一言で言いますと「強烈！！」でした。原田先生の思いが凝縮された回なのかな、と私は強く感じました。基本的な考え方ができていないと、上っ面だけ真似してもダメだということがよくわかりましたし、何事においてもですが、常に基本に忠実にやろう、と再認識できました。課題は、ボリュームがありなかなか大変なところもあり

ましたが、ここまで深く考え、行動予定を落とし込んだことはなかったので、非常に学びになりました。料理のレシピの例えが、「なるほど」と思えました。

そして「人間性」が大切である・・・この言葉は、以前金融機関で営業をしてきて、数字が人格であり、成績が悪ければ人として扱ってもらえないようなマネジメントの中で営業をしてきた自分にとっては、すごく救いになりました。確かに結果は大切ですが、まず人としていかにあるべきかが、やはり大切なのだと。自分は間違っていなかったと再認識できました。

「正しいゴール設定」「人格形成」「人格否定はダメ」この3つの言葉と、自分は何としても継続、習慣化を通してトップ1～3%に入りたい、と強く決心した回でした。

第3回目では、前回の課題で自分が書いたものを見直しながらの受講でした。添削をしていただきましたが、はなマルやマルがたくさん、そして勇気づけられるコメントも多く書いていただいております、正直「え？こんなマルもらってええんかな？」というのが最初の思いでした。おそらく、「添削＝修正・ダメ出し」という図式がどこかで刷り込まれているのでしょう。自分の意識改革が必要と感じました。そして、少し時間をおいて見直してみると、加筆修正が必要なところも少し見えてきましたので、多少は進歩しているのかな、と自画自賛してみました。

「継続」「人格と能力のバランス」「心を使う」自分に足りないところを意識して、少しずつでも伸ばしていきたいと思います。

第4回目、少しだけですが、やっと講義に参加させていただくことができました。

添削に関しては、実際にチェック項目に沿って自分のOW64や長目などを対象に行ってみると、自分が書いたものであっても客観的に、また違った角度から見ることができると感じられました。

「添削はストロークである」この言葉を忘れずに、形・型も大切ですが、自分が添削者になった時には、魂のこもった添削をして差し上げるようにしていきたいと改めて思った次第です。

川阪先生の講義では、「選択と集中」、このフレーズが一番刺さりました。自己評価してみるに、様々なことに興味を持ち、それらを学ぼうとし、自己投資するまではよくても、手を広げすぎて結局どれも中途半端で活かすことができている。その場の思いつきの自己満足に終わっているこの現状は変えなければいけない、と強く感じました。まずは、この認定パートナーの学び、実践に特化しよう、と思いを新たにしました次第です。

加えて、「自分の強み・専門性」も活かしながら、強力な武器にしていければと思います。

最終回を前に思うこと

今、「成功は技術である」という言葉の意味が少しわかりかけてきた気がしています。正

しい努力を正しい方法で行う。言われてみれば当たり前のことなのですが、なかなか気づくことはできないと思います（少なくとも私は）。正しい目標設定を行い、正しい努力を積み重ねること。これも、非常に大切なことだと思いますので、心に留めて実践あるのみです。

また、他の参加者の方のお話を聴いていると、様々な見方感じ方があり、これも大変参考になりました。個人的には、「あ、その話わかるわかる」といったようなこともあり、仕事や環境も違うなかで、そういった共感？というのでしょうか、すごく感じた場面もありました。

今まで、課題などを通して得られた気づきで一番大きいことは、「習慣化」の力です。これは、自分がループリックでもとりあげた「やりきる力」にも通じますが、ほんの二週間程度の日誌の実践でも、自分の自信になっているのが感じられました。内容はもっと精度を高めていく必要はあると思いますが、私は1日1Pの日誌を続けて書いていきます。日誌の傾向としては、自分へのダメ出しが多いことがわかりましたので、出来たことにももっと目を向け、自己効力感・自己肯定感を高めていきたいです。

まもなく最終回を迎えますが、これで終わりではなく、スタート地点に立ったにすぎないと、私は思っています。可能な限り復習し、その中でおそらくまた違った気づき、感じ方が出てくると思っています。学びに終わりなしですので、これからも引き続き学び続け、PDCSS サイクルを回していきたいです。

個人的な話で恐縮ですが、私は諸事情により自分の子どもたちとは離れて暮らしてきました。その反動もあるのかもわかりませんが、認定パートナーにならせていただいた際には、以下のように活動していきたいです。

- 2023年の5月から
- 将来を担う子どもたちを中心に
- このメソッドを活用し、スタディコーチとして
- 子どもたちがそれぞれの価値観に沿った目標を達成できるサポートをし、
- 彼らが大きく羽ばたけるように

地方ではありますが、まずは地元和歌山で上記のごとく貢献できるよう、自分のスキルをもっともっと高め、認定パートナーとして活動していきます。

改めて、この度は誠にありがとうございました。以上、感想、気づきとさせていただきます。

石井 志郎 拝